

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193000064		
法人名	株式会社e-ケア		
事業所名	グループホーム あんしん・ふらの (ほくと)		
所在地	富良野市末広町6番22号		
自己評価作成日	平成30年10月23日	評価結果市町村受理日	平成31年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigvosyoCd=0193000064-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階にデイケアセンター、保育施設、3階にサービス付き高齢者向け住宅があります。2階に2ユニットのグループホーム「あんしん・ふらの」があります。併設された整形外科医院が横にあり、その病院の隣に老人保健施設が新たに出来ました。市内には連携施設のグループホームや、近くには商業施設などもあり、地域で安心した生活を送る事が出来ます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部に近く、観光地として有名な富良野マルシェからも指呼の距離で、また役所や学校が近い割には閑静な住宅地でもあり、優れた交通の便と落ち着いた環境を持ち合わせた条件下に立地している。当事業所は、母体法人が占有する鉄筋3階建の2階部分に2ユニットが入り、3階にはサ高住、1階と2階に病院が、1階の一部には保育所が開設している。母体は建物を同じくする医療法人で、理事長が医療面を完備した認知症介護を指向して2013年設立され、現在市内でグループホーム2事業所4ユニットを展開している。当事業所の優れている点の筆頭は、医療面でのバックアップ体制の充実が挙げられる。同じ建物にある病院とは、電話一本で24時間オンコール体制が確立しており、医師の回診も定期的に行われ、医師が最後まで立ち会う看取り介護の実績も利用者・家族との信頼関係を強く築きあげている。次に開設以来から5年間、職員の変動が少ないのも特筆される。昨年、今年4月に老健施設が出来たため職員一名が内部移動となり、同時に2名の職員が辞めたが、それまでは退職者の出ない事業所で、チームワークの良さは現在も変わっていない。介護面でも注目したい。当事業所の入浴は入浴日を決めない毎日が入浴日として支援している。入浴日や入る順番を設定せず、個別の好みや必要性を考慮し、また全員が週に2回以上入れるよう入浴介助を行っている。介護の都合に流されない、本人本位を目指している当事業所に、今後も大いに期待していきたい。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64
			2. 数日に1回程度ある	
			3. たまにある	
			4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
			1. ほぼ全ての家族と	
			2. 家族の2/3くらいと	
			3. 家族の1/3くらいと	
			4. ほとんどできていない	
			1. ほぼ毎日のように	
			2. 数日に1回程度	
			3. たまに	
			4. ほとんどない	
			1. 大いに増えている	
			2. 少しずつ増えている	
			3. あまり増えていない	
			4. 全くいない	
			1. ほぼ全ての職員が	
			2. 職員の2/3くらいが	
			3. 職員の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
			1. ほぼ全ての利用者が	
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
			1. ほぼ全ての家族等が	
			2. 家族等の2/3くらいが	
			3. 家族等の1/3くらいが	
			4. ほとんどできていない	

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、利用者様が生活していく中で心の寄り添い方や安心できる生活の過ごし方など、スタッフ間で話し合い、より良いケアを目指している。	心に寄り添う事を理念とし、事業所内に掲示すると共に、今月のケア目標も職員で定め、また具体的な介護二十条とともに貼りだし、より実践に活かせるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1階にある保育施設園児との交流や町内会へ加入しており地域行事の参加、同法人による市民公開講座が開催され利用者様に参加していただき地域とのつながりを得ている。	唄や踊り、手品などのボランティアを招いたり、町内のお祭りに参加したり、認知症カフェの取り組みや、また母体法人が行っている市民講座への参加等、地域との交流に積極的に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してグループホーム内の生活の様子や行事の様子など報告し地域の方へ理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、市職員担当者、民生委員、町内会連合会長やご家族様等へ出席していただき、現状報告や意見交換し、アドバイスを活かしながらサービス向上に努めている。	推進会議は行政や地域代表、家族等の参加を得て、2ヶ月毎に定期的に開催している。議事内容も行事報告に留まらず、災害時の対策やターミナルケアについても論議され、議事録は関係機関や利用者家族宅にも郵送され、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	1ヵ月に1回、市主催において地域ケア会議が開催されており管理者やケアマネが参加し市との連携に努めている。また、地域ケア会議の中で他の事業所との交流もあり、意見交換など行っている。	定期的な地域ケア会議や運営推進会議、実施指導等で情報交換を行っており、介護の更新や変更申請時にも指導助言があり、信頼性の高い関係を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し3階サ高住職員と月に1回の頻度で身体拘束委員会を開催しユニット内での周知や上下間で情報共有している。施錠などのセキュリティ対策はしているが利用者様が自由に行動しやすいよう随時対応し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	今年度から新たに身体拘束防止の委員会を設置し、階上のサ高住も加わり、毎月委員会を開催しており、ヒヤリハットや事故等の検証を行っている。また月に一度のケア会議等でも報告し、拘束や抑制と無縁な介護への周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し3階サ高住職員と月に1回の頻度で虐待委員会を開催している。新人や職員に向けて日々の関わりの中で言葉遣いや態度など改善すべき所は注意し、虐待のないケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後制度について、セミナーを通して学び、他のスタッフへ伝達、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関してご家族様へ家賃等などの事前相談や契約・解約に関して説明し理解、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様へ向けて利用者様の生活状況を記載した「あんしん便り」の発行回数を増やし事業所としての取り組みを伝え、面会や電話等を利用してご家族様の意見、要望等聞き取り運営に反映している。	利用者の日々の生活を「あんしん便り」としてお伝えし好評を得ているため、発行回数を増やしてより要望に応えられるように対応している。また来所時には意見や要望、苦情を聞き取り、サービスの向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度ケア会議を開き、スタッフへ入居者様の関わり方について、どう向き合うか等意見を聞き取り、改善方法など話し合い運営に反映できるよう努めている。	職員とは半年に1回、自己評価に関して面談を行い、目標や現状を話し合っている。ケア会議も毎月開催し、色々な工夫やアイデア、提案を検討し運営や介護に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サポート制度の活用やスタッフが向上心を持って働けるよう、環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、スタッフ一人ひとりのケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設行事など等、イベントを通じて他の事業所との交流があり情報交換など行いサービスの質向上へ取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方にあった関わりを心掛けることで、本人の困っている事、思いなど伝えやすい場を工夫し、思いについて聞き取りし関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に向けても、面会等を利用しながら寄り添う姿勢をとり親身になれるような心遣い、気遣いの配慮が必要であり困っている事、要望など話しやすい環境の工夫により、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の事前情報など収集し、その人にとってどのような対応をしていくべきか職員間で話し合い必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の立場を踏まえながら、目上の方としての配慮を忘れずに、家庭的な時間を過ごしていただけるよう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様に寄り添える関係性を築き、ご家族様が知っているご本人様のこれまでの様子など教えていただく等、家族協力を得ながら円滑な関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が今までの馴染みある事が続けられるよう、馴染みの場所へ外出、知人との再会、自宅へ行くなど、関係性が途切れないよう努めている。	室内には馴染みの家財を配置し、昔からの床屋や美容院へも同行し、馴染みの関係を大切に考え、途切れないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場で、気の合う仲間同士の関係性を把握し、レクや日常生活の会話を通じて入居者様が孤立しないよう職員との関わりを交えながら円滑な交流が出来るよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じてご家族様の要望や相談業務など受け付け支援できるよう関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様で寄り添いケアをする事で今後の生活の過ごし方、要望など聞き取り確認した上で、職員間で情報共有しながらケアに取り組み、ご本人様の意向に近づけられるよう努めている。	生活に寄り添い、思いや意向を把握し、職員全員で共有しており、必要な部分は介護計画に盛り込み、思いや意向の実現にチーム一体で臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの今までの暮らししてきた過程をご家族様や職員の聞き取りを通じて情報を把握しご本人様が暮らしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状況に気を配り職員間の声の掛け合いや相談など行いながら状態を把握しより良いケアが出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様について担当制としており、個々の状態について定期的にカンファレンス、モニタリングを行い介護計画の見直しや個々にあった目標を立て、実践している。	介護計画の目標達成を目指し、介護日誌にケアプランについて記入できる様式を用いており、日々の記録で目標への進捗度を把握している。3ヶ月ごとにケアプランを見直し、また病変等ではすぐに変更を検討し、現実即したプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動など細かな行動、様子等ケアについて個々のケース記録へ記入、職員用の連絡ノートを用いて情報収集、共有しながらケアに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人様へ新たな情報を聞き取るなど情報収集しながら、その状況に応じたサービスが提供できるよう努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流や、慣れ親しんだ友人との付き合いのつながりなど、利用者様が楽しみや生活の張りを持って暮らしやすい生活ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科などの通院に関しては、協力医療機関へ通院し、家族様や職員が同行対応している。利用者様の状態変化等の場合は、併設されている同法人の医師へ連絡し受診対応するなど医療体制を取り支援している。	かかりつけ医は家族と利用者の希望を尊重しており、家族または職員同行で通院を行っている。また看取り介護を希望される場合は、時機を見て協力医の変更も検討している。また併設の病院の看護師も即応で支援体制を維持している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている提携病院の看護職員と連絡を取りながらご本人様の身体状況について報告し、適切な処置が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院関係者やご家族様へ身体状況の確認など情報収集を行い、退院後のケアの在り方について円滑に相談できるよう関係作りに努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期ケアに関しご本人様、ご家族様と入居時の意思表示や生活していく中で意向を再確認し、提携病院の医師との協力体制により職員の日々のケアに取り組みながら、利用者様の最期の看取りケアを実施している。	終末期のケアに関しては、見学や契約時に書面で説明しており、利用者や家族が望めば、最後まで支援できる様、看取りの研修を医療スタッフから学ぶ等、医療関係者や家族の協力を得ながら重篤期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救命講習会の講習会に参加し、急変時や事故発生時の対応が出来るよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間、夜間設定で避難訓練を実施しており、緊急時に対応できるよう取り組んでいる。また、地域との協力体制も整えられるよう心掛け、停電時の対応策についての取り組みも強化していく。	年に2回、夜間想定を含め火災時の避難訓練を消防署主導で行っており、問題点等を運営推進会議に報告している。また火災以外の災害では、避難場所を同建物の3階とし、現実的に即した災害対策が図られている。	冬季の災害では、暖房の装置や機器等の用意は絶対不可欠と思われ、機種や個数等について検討し、安心できる生活を送れる工夫に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び名や会話の内容等配慮し、尊重できるよう一人ひとり関わり方について職員間で注意喚起し、プライバシーの配慮や丁寧な言葉遣いや態度に配慮できるよう心掛けている。	人格の尊重は介護の第一歩であり、基本姿勢として強く意識し介護に臨んでいる。具体的には声掛けや接する態度、礼節を重んじた支援に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の要望が受け入れ、提案、相談しながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合った生活ペースを知り得た中でご本人様がどのようにこの場所で暮らしたいか、職員都合を優先するのではなくその方のペースに合わせた支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を自ら選択するなどおしゃれや好みの日に入浴できるよう調整しながら身だしなみを整えている。また、馴染みの理美容室へ依頼し外出し、気配りできるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外注にて管理栄養士の献立表により厨房で調理しており、季節に合わせた行事食の提供や減塩食などの対応もあり、健康に配慮した献立メニューを提供。気の合った仲間と食事をする事で楽しみながら食事をされている。	食事は外注で行っているが、おやつ作りや行事食では職員が率先して行っている。利用者には配膳や下膳、テーブル拭きなどのお手伝いもお願いし、食べるだけの食卓にならないように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アレルギー対応や、形状、量など一人ひとりに合った食事の提供が可能であり、栄養状態の管理、改善等栄養バランスについて相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、義歯の手入れや舌苔のケア、うがい薬使用にて口腔内の清潔を保持し、見守りや介助にて対応している。口腔ケアをする事により誤嚥性肺炎の予防や口臭予防を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄のパターンを把握し、極力トイレでの排泄により自立にむけた支援ができるよう心掛けている。	排泄はトイレで行うことを基本としており、時間での誘導や排泄の仕草も見落とさずに対応し、本人にとって負担の少ない排泄になるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるよう極力下剤に頼らないケアに努めているが、個々の状態に合わせて下剤の内服により排便状態の確認を行い予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日毎や入浴順番を予め決めずご本人様の体調や要望に応じて個別対応にて入浴していただいている。また、入浴出来ない場合は清拭対応するなど身体の保清に努めている。同性介護や希望されているスタッフが対応するなどプライバシーの配慮に心掛けている。	浴槽には毎日お湯を入れて入浴の準備をしており、毎日が入浴日となっている。基本は入浴順番を決めずに個別対応とし、かつ利用者全員が週2回以上入浴できるように努めている。また必要に応じて併設病院の特浴も使えるよう許可も得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量の状況や体調変化など把握しながら、体調に合わせた休息や安眠につなげられるよう環境の工夫や関わりに配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服薬の一覧表をファイルに保管して職員全体が副作用を周知した上で内服状況を認識し、医療連携にて体調変化等、相談し体調に合わせて服薬調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で日課となる食器拭きやおやつ作り等の家事手伝いを役割分担する事で張り合いのある時間やレクや行事参加を通して楽しく過ごしていただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調の配慮もあるが、外出の要望があれば、法人の福祉車両を使用して季節毎の景色観賞や店での買い物などに出掛けられるよう心掛けている。また、ご家族様の協力体制を得て自宅など馴染みある場所へ外出できるよう努めている。	春や秋の季節のドライブの他に、近所にある富良野マルシェに出かけたり、ご近所を散策したり、また温泉や地元の観光地へも家族の協力を得ながら行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理している方もいるが、お小遣い程度の金銭を預かり、管理している。使用する際は必要に応じて出し入れし、収支状況を把握できるようファイルにて管理し、使用状況等ご家族様へ毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば状況を把握した上で電話を掛ける等し、手紙のやりとりや個人携帯の使用など知人や家族との交流が円滑になるよう職員が間に入り交流を深めていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなど共有スペースに季節毎に飾り付け季節感を感じていただきながら安心して過ごしてもらえるよう工夫している。気の合った仲間同士席に座りながら会話したり食事やレクなど参加している。また、職員が間に入りながら雰囲気をもたせようなど、嬉しい、楽しいと思えるような時間が増えるよう心掛けている。	居間兼食堂は広く、採光にも富んでおり、季節感溢れる飾り付けもあり、落ち着いた居場所として工夫が感じられる場所となっている。また温度や湿度等の空調も適正に調整し、居心地よく過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今日スペースの中で一人ひとりの場所がある程度決まっており、気の合った仲間同士が集まり会話するなどテーブル席の配置を考慮し思い思いに過ごす事ができるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の中で使い慣れた物、愛着のある物を自室へ持ち込んでもらい、居心地よく暮らせるよう生活環境を整え、本人に寄り添いながら安心して生活が送れるよう親しみを持った関わりができるよう心掛けていく。	居室には馴染みの家具が置かれ、写真等が壁に貼られるなどの、自分の部屋として落ち着いて過ごせるような工夫が見られ、安心して過ごせるような配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や共有スペースなど利用者様にとって安全な行動ができるよう生活環境を整え、サービスを受けながらも自立した暮らしが続けられるよう努めていく。		